

トラック輸送情報（平成14年10月分）

平成15年 1月10日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：金子、荒木 内線28-315

直通 03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

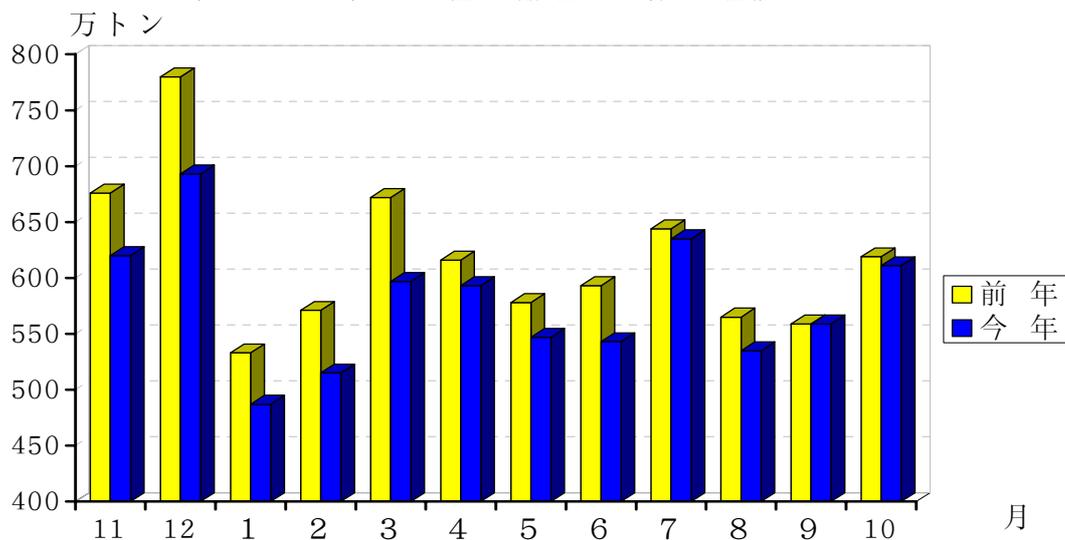
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の輸送状況

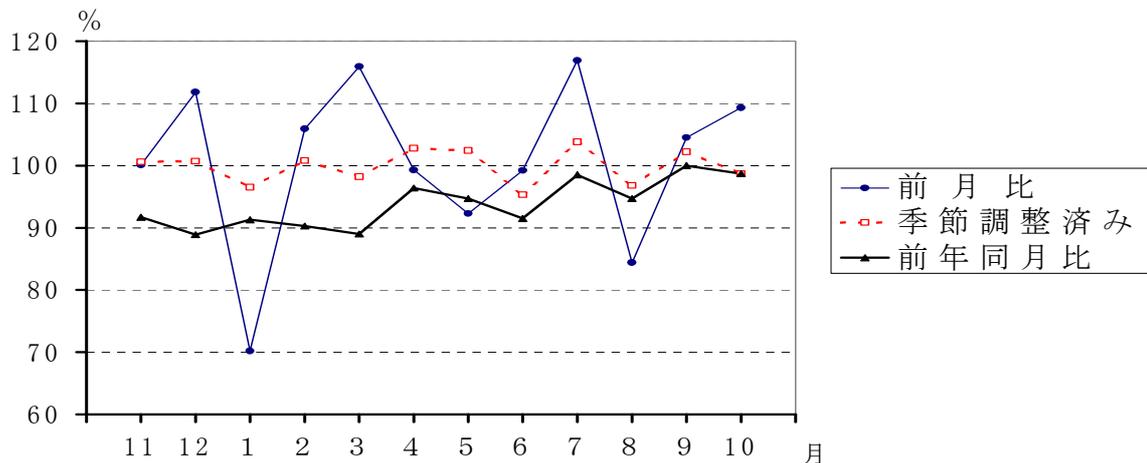
調査対象26社の本月の輸送量は6,111,960トンで、前年同月比 98.7%、前月比109.3%（季節調整済み 98.7%）の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

なお、平均稼働日数は、25.4日、稼働1日当たりの輸送量は240,628トンで、前年同月比 94.0%、前月比 98.5%となった。

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



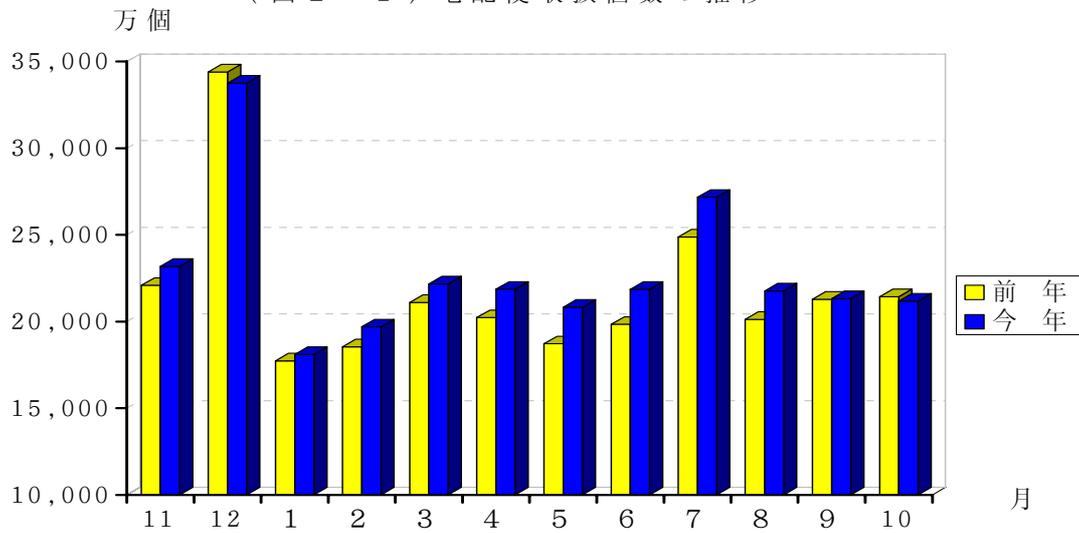
（図1-2）前月比・前月比（季節調整済み）・前年同月比



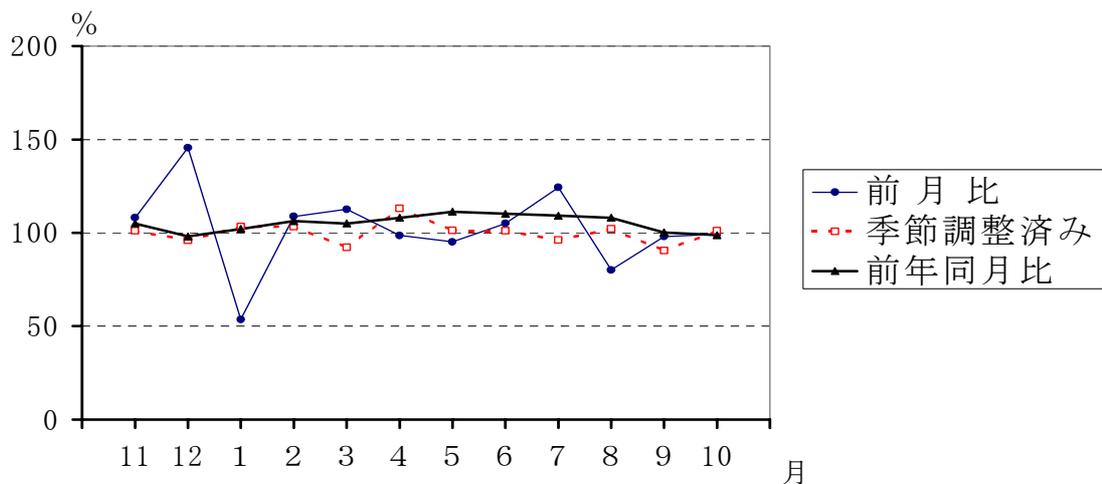
(2) 宅配便の輸送状況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は211,759千個であり、前年同月比 98.8%、前月比 99.3% (季節調整済み101.1%)であった。(図2 - 1、図2 - 2参照)

(図2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図2 - 2) 前月比・前月比(季節調整済み)・前年同月比



(3) 本月の輸送動向

本月の輸送は、前月と比べ、平均稼働日数は2.5日増加し、稼働1日当たりの輸送量は約0.4万ト減少したため、前月比 98.5%の実績となった。総輸送量について先月と比べ約52万ト増加したため、前月比109.3%の実績となった。宅配便についても約154万個減少したため、前月比 99.3%の実績となった。

前年同月と比べると、平均稼働日数は1.2日増加し、稼働1日当たりの輸送量は約1.5万ト減少したため、前年同月比 94.0%の実績となった。総輸送量について、約8万ト減少したため、前年同月比 98.7%の実績となった。宅配便については、約267万個減少したため、前年同月比 98.8%の実績となった。

(4) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、前月と比べ、稼働日数が2.5日増加し、全ての品目において増加傾向にあった。中でも、日用品が全国において、工場・生産地、商社・問屋及び倉庫から出る貨物増を主な理由として増加している。

前年同月と比べると、顕著な増減傾向は見られなかった。しかし、わずかながら、繊維工業品が中部において、工場生産地からの貨物減を主な理由として減少している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因	
	著 増	増	変 らず	減 減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	4	10	2	農産物、青果物	東北、関東	4, 8
							関東	4
	金属製品		5	13	2	建築用金属製品、工具類	関東、大阪	7
	機械		5	13	2	自動車部品、農機具	関東	4
						家電製品	関東	4, 5, 7, 9
	化学工業品		5	14	3	紙パルプ、化学薬品、合成樹脂	関東	4
							関東	4, 5, 9
	繊維工業品	1	6	13	3	織物	北陸信越、関東	4
						中部	4	
食料工業品	1	8	10	2	製造食品、加工食品、飲料	関東、近畿	4, 7, 8	
日用品	3	7	8	3	一般貨物、身廻品、書籍	全国	4, 5, 7	
						関東	4, 7, 8, 9	
その他	2	8	10	1	宅配貨物	全国	2, 4, 8	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		2	12	3	農産物	東京、中部、中国	4
						青果物、畜産物	関東	4
	金属製品		1	15	4		近畿	9
							近畿	4
	機械	1	3	13	3	自動車部品、農機具	関東、近畿	4, 9
						家電製品、機械部品	関東	9
	化学工業品		4	13	5	化学薬品、塗料	関東、近畿	4
						合成樹脂	東京	4
	繊維工業品		3	16	3	1	東京	4, 9
							中部	4
	食料工業品	1	4	12	4	製造食品、飲料	関東、四国	1, 5, 7
						関東	7	
日用品		9	5	7	一般貨物、印刷物	全国	4, 5, 9	
					身廻品	北陸信越、関東	9	
その他		4	11	6	宅配貨物	全国	2, 4, 5, 9	
						関東	9	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 879社 / 調査対象事業者数 1,110社）の輸送量は、前年同月比100.2%、前月比105.7%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	100.2%	101.8%	96.3%	100.8%	97.3%	97.9%	101.0%	107.3%	102.0%	97.7%	124.4%
前 月 比	105.7%	109.1%	106.4%	105.7%	105.8%	103.5%	101.5%	106.7%	100.8%	106.1%	109.6%

(2) 地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、精糖用ビート(てんさい)をはじめ、農産物の収穫期に関係する輸送が見られたことから、対前月比109.1%であった。しかし、公共工事が低調に推移したこともあり、対前年同月比101.8%にとどまった。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも灯油等季節的需要が見込めるが減少傾向にあるものと思われる。</p>
東北	<p>本月の輸送は、稼働日数の増加や、「穀物(米)」や秋季野菜が収穫期となったこと、また冬季に近づいてきたため「その他の石油製品(灯油)」の輸送量が増加したことから、対前月比106.4%となった。なお、対前年同月比は96.3%と依然として厳しい状況である。 今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降はわずかでであるが減少傾向にある。</p>
関東	<p>本月の輸送は、「木材」、一部地域においては季節的なものによる「野菜・果物」の輸送量の減少が目立ったが、全体的には、農産物の収穫期等による輸送増が見られたことから、対前月比105.7%、対前年同月比においても100.8%と増加した。 今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに下降傾向にある。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、引き続き農産物等の輸送が順調なこと、降雪期前の工事関係の駆け込み需要が多く資材等の運搬が増加していること、冬季に向けての灯油等の「その他の石油製品」の需要増等季節的変動により輸送量が増加したことにより対前月比105.8%となった。しかし、不況による荷主の出荷量の減少や他社との競合激化等により対前年同月比では97.3%であった。 今後の輸送見通しは、次月及び以降ともにほぼ横ばい傾向となっている。</p>
中部	<p>本月の輸送は、季節的要因により「野菜・果物」「木材」の輸送減が見られたが、「穀物」「その他の農産物」、公共工事の需要時期に入ってきたことによる「砂利・砂・石材」、「その他の窯業品」等の輸送増等が見られたことから、対前月比は103.5%となった。しかし、対前年同月比は97.9%と減少となっている。今後の見通しは、次月以降は横ばい傾向となっている。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、収穫期による「野菜・果物」の輸送増が見られるが、紙・パルプや食料工業品に減少が見られたことから、対前月比101.5%とわずかな上昇にとどまった。また対前年同月比でも101.0%と増加したが、厳しい状況には変わらない。 今後の輸送見通しは次月及び以降ともに下降傾向にあり、予断を許さない。</p>
中国	<p>本月の輸送は、先月と同様に農産物等を主体に輸送量が増加している。また、「セメント」と「廃棄物」の輸送増や一部地域において「その他石油製品(暖房用灯油)」の輸送増があったことから、対前月比106.7%となった。しかし山陰側2県では、輸送減の事業者もみられ、引き続き不況の影響を受けたものと思われる、対前年同月比では107.3%であった。 今後の輸送見通しは、次月及び以降ともほぼ横ばい傾向となっている。</p>
四国	<p>本月の輸送は、秋の収穫期によるみかん等の農産物の出荷増が見られたが、景気の影響による「鉄鋼」「セメント」等の輸送減があったため、対前月比100.8%とほぼ横ばいであった。また対前年同月比も102.0%とわずかで増加している。 今後の輸送見通しは、次月及び以降ともほぼ横ばい傾向となっている。</p>
九州	<p>本月の輸送は、季節的に農作物の出荷時期、さらに公共事業・建設関係の輸送に伴うものが見立ったため、対前月比106.1%と増加した。しかし、工事関係は昨年よりは減少しているため、対前年同月比97.7%と減少している。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともほぼ横ばいである。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、「取り合わせ品」について、引越し荷物および内航船舶小口混載貨物等の輸送需要が落ち込んだ反面、年末が近づき、年賀はがきの輸送が増加した。その他、「水産品」や「その他農産品(葉タバコ)」の輸送需要も増加したことから、対前月比109.6%、対前年同月比で124.4%の実績となった。今後の輸送見通しは次月及び以降ともに上昇傾向にある。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりました。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	2	10	1	2	1	0	4	0	4	0	24
	減	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
2. 野菜・果物	増	8	3	2	3	0	2	0	3	9	0	30
	減	3	3	5	0	2	0	0	0	2	0	15
3. その他の農産品	増	6	0	1	1	1	0	0	1	0	1	11
	減	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
4. 畜産品	増	0	0	1	1	0	0	1	0	2	0	5
	減	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3
5. 水産品	増	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	5
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
6. 木材	増	5	2	1	0	0	0	1	1	3	0	13
	減	3	1	8	1	2	2	0	0	4	0	21
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
9. 金属鉱物	増	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10. 砂利・砂・石材	増	2	4	0	2	1	0	2	1	3	0	15
	減	9	2	0	0	0	0	0	0	1	0	12
11. 工業用非金属鉱物	増	4	1	0	0	0	0	1	0	3	0	9
	減	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
12. 鉄鋼	増	3	0	1	2	0	1	2	1	4	0	14
	減	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	4
13. 非鉄金属	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	減	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
14. 金属製品	増	1	1	1	2	1	2	1	0	3	0	12
	減	0	0	0	2	0	1	0	0	2	0	5
15. 機械	増	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0	4
	減	0	1	2	1	0	1	0	0	0	0	5
16. セメント	増	1	4	0	4	0	0	4	1	6	0	20
	減	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
17. その他の窯業品	増	2	1	1	1	1	0	0	0	1	0	7
	減	0	1	0	0	0	0	2	0	2	0	5

